

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100966		
法人名	NPO法人ささえ愛ひかりの家		
事業所名	ほのぼの		
所在地	熊本市西区河内町白浜イ2238		
自己評価作成日	平成25年10月15日	評価結果市町村受理日	平成25年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成25年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<input type="checkbox"/> 利用者各人の生活歴を大事にケアにあたる。
<input type="checkbox"/> 本人様本位に考え思いやりのある言葉かけに努めている
<input type="checkbox"/> 薬に頼らないケアを目指している。
<input type="checkbox"/> 利用者の元気、穏やかさ、笑顔がご家族の信頼関係になる
<input type="checkbox"/> 業務優先でなく、柔軟な対応をし安心して過ごせるようにします

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの環境は特産品である『みかん畑や山』に囲まれ、入居者は馴染みある風景の中で明るく活気ある日常を過ごしている。また、赤ちゃんや子ども相撲大会、まつりの開催、ちまき作りなど慣習や伝統行事が大切に継続される地域であり、これらへの参加や関わりは、支援する職員にとっても地元の良さを再確認出来る機会となっている。職員は日々入居者と関わる時間を大切に、その中で思いや意向を引き出し実際のケアに繋げている。個々のペースに合わせ進められる食事風景や、玄関先には暑い夏でも、気温や個々の体調を見ながら少しの時間でも外出できるように、人数分の麦わら帽子が置かれた様子に、『ほのぼの』とした温かな日常が繰り返されていることが垣間見える。今後も職員を温かく包み込みながらリーダーシップを発揮する管理者のもと、入居者・家族の思いに応えるホームの取り組みに期待が持たれる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="checkbox"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="checkbox"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="checkbox"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="checkbox"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="checkbox"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="checkbox"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="checkbox"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="checkbox"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="checkbox"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="checkbox"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="checkbox"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	できている	地域の中で過ごすことの意義を盛り込んだ理念は、勉強会や申し送りの中で確認を行う他、台所や職員休憩室に掲示し共有を図っている。また、法人内異動や新職員に対しても説明を行い、理念を大切にされたケアにあたることの重要性が指導されている。	ホーム玄関にも理念を掲示し来訪者などに啓発している。今後は推進会議の中でも機会あるごとに、ホームの取り組みと合わせて理念について説明を行うことで、さらに理解や信頼が構築されると思われる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加。ボランティアの受け入れ(地区住民)	入居者にとって馴染みのあるこども・赤ちゃん相撲大会やまつりなど地域行事に出かけ、見学や応援による交流を行いながら外出の機会にも繋げている。また、踊りやオカリナ演奏などボランティアの受け入れや、保育園児や小学生との交流の機会は入居者にとって楽しみとなっている。ホームの周辺はみかんやいちごなどの栽培が盛んであり、差し入れやいちご狩りに声をかけられるなどホームへの理解が深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サポーター養成講座		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	できている	二ヶ月に一度開催される会議は、地域代表者や包括、時には利用者も参加しながらホーム食堂で開催され、入居者の現況やヒヤリハット報告など透明性のある会議となっている。協議事項の中で介護スタッフがストレスを溜めないために、参加者がそれぞれの立場で意見を出されるなど、ホームの良き理解者として会議に参加している。また、外部評価についても結果や取り組みが報告されている。	毎回、協議事項を設け有意義な会議が開催されており、今後は家族にも参加を呼びかけ、意見や提案を受けることで更にホーム運営に繋がる会議となっていくと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談員・保護課・包括と連絡できている。	包括職員が推進会議に参加した際や相談員の訪問時に、ホームの現況や取り組みなどを伝えながら行政へと繋げている。また、法人代表者は相談や質問がある場合は電話や役所を訪れアドバイスや指導を受けるなど、良好な関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ほとんどないが、危険回避のため、僅かな時間、玄関の施錠をした。	年一回の研修や、外部講師による講習の機会を設け、拘束や虐待を含む利用者尊重に繋がる研修会を開催している。管理者は入居者への対応や声掛けが上から目線になることがないように、日々業務の中で指導を行っている。不穏や外出傾向のある入居者に対しては、ホームの庭や近隣の馴染みのみかん畑などへ散歩し安心してもらうなど、職員が連携して支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ストレスをためないよう、暴力行為の人には2人で対応するなど、職員間で支援しあう等防止している。虐待等はしていない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を活かして活用している。勉強会、メディア情報		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明し納得してもらっていると思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	できている	入居者とは日頃の関わりの中で意見や要望が言える関係ができており、買い物やドライブへの希望などがよく出されている。家族からリハビリ治療の希望が出され、ホームは家族が心残りのないよう支援する事を大切にしており、職員が業務調整を行いながらリハビリ施設への送迎が行われている。公的機関の相談窓口については入所時に契約書の中で説明を行っている。	入居者から昔思い出のあるお寺への外出希望が出されている。距離の点からなかなか困難かと思われるが、個別支援なども検討されており実現に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	できている	代表者も参加するミーティングや毎朝の申し送りなど、職員が意見や提案を言える機会や雰囲気をつくり、法人全体で心がけている。また、管理者は職員の健康状態の確認や希望休への配慮など働きやすい職場環境に努め、気になる点は常に代表者に伝えながら改善を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修と外部研修に参加できている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	不明(外部研修に参加した時は交流している)		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	できている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できている。家族面会が多く会話に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会を自由にしている。努めている。	古くからの慣習が残る地域で開催される相撲大会やまつり見学、ちまき作りなど入居者と一緒に取り組んでいる。また、家族が訪れやすい雰囲気心がけ大切な関係が途切れない支援に努めている。入居者にとって地域の特産品でもあるみかん畑を、ホームにいても庭先から眺めることのできる環境が何よりの馴染みの環境と言える。	ホームでは洗濯物たたみや草むしり、野菜の皮むきなど、入居者がこれまで取り組んできた事を継続して支援しており、今後も趣味や特技、こだわりなどの情報を収集し引続き取り組める環境作りに期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めてはいるが、コミュニケーションがうまくとれない場合もある。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	できていると思う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位にできている。	入居者との関わりの時間を大切に思いや意向を引き出している。また、家族の面会時には入居者の状況を伝えながら、気づかれたことがないか尋ねている。入居者の状況によってはボードの使用や、ジェスチャーを交えながら確認し、職員間で本人本位に検討しプラン作成に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	できている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで、できている。面会時、家族へ報告している。	計画作成担当者は本人・家族の意向や、職員の意見を確認し、それぞれの立場で出された内容を反映したプラン作成に努めている。また説明を行う際は家族とゆっくり関わりながら丁寧に話を進め了承を得ている。プランが実際のケアに繋がっていることが、支援状況や聞き取りからも確認された。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	できている。(申し送りノートや記録表)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	できている。お宮参り、買い物、図書館、地域のドライブ		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	している。	個々の在宅時からのかかりつけ医を入居後も支援している。受診の付き添いは家族の協力を得ながらホーム側も柔軟に対応し、必要によっては受診先で家族と待ち合わせ、医師より直接状態を聞く事で家族の安心ともなっている。職員は、平均年齢88歳という入居者の現状を把握しながら、支援のあり方について共有し、会議の中で職員自身が安定した精神状態で入居者に向き合うよう話し合いをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	できている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	できている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できている。終末期は主治医の受け入れができない為看とりは行っていない。	終末期支援について入居時に事前確認書で本人・家族の意向を把握している。指針を基に説明を行い看取りまでの支援を視野に入れていたが、医師の確保が難しいことなどから、現段階ではホームでの対応に限界があるとしている。管理者はホームに出来る最大限の支援に努め、話し合いの場が必要と感じている。	今後は早い段階で入居者や家族の意向を確認し、個々に話し合うことが望まれる。また、看取りの有無に関らず、積極的な勉強会を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	不足と思うが、数人はできている人もいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	できている	火災を想定した総合訓練では水消火器を使った初期消火を体験し、その際、消防署より避難経路に物を置かないなどの指導を受けている。日頃からダンボールなどの燃えやすいものは収集直前に出すことや、環境整備の担当者が喫煙所のチェックを徹底するように申し合わせている。通報時の連絡網には近隣住民の協力が得られ、地域での津波訓練に参加し、入居者数名と指定された高台に避難して連携を図っている。	日々の安全点検は記録方法を検討し、確実なものとなる事を期待したい。備蓄についても話し合い、常時準備される事を望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できている	呼称は入居者の希望を確認したり、反応を見ながら苗字や下の名前で呼びかけている。入居者への対応を「職員の心得」として目に付く所に掲示し、職員は日々心に留めながら支援に当たっている。入職時の説明で守秘義務について誓約書を交わし、家族から個人情報保護の同意書を得て情報管理に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来と思うが、意思表示できない人には表情や動きなどに着目しケアをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理を強いらずペースを合わせるようにしているが、できてないこともある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できている	リビングで入居者の好みを尋ねながら職員が一週間分の献立を作成している。食材購入は地域の商店を利用し、家族や近隣者からの野菜や果物の差し入れも活用している。入居者は野菜の下ごしらえや下膳など出来ることを手伝い、季節感を取り入れた食事を職員と入居者が一緒に摂っている。外食の際には使い慣れたスプーンやとろみを持参し、楽しい食事になるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	できている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を優先している。	入居者の排泄間隔を把握し、様子を見ながら声かけや誘導により、日中のトイレでの排泄を支援している。入居者に必要な排泄用品を検討し、布下着などと併用しながら対応している。夜間帯に使用したポータブルトイレや、共有空間にあるトイレは担当者が小まめに掃除を行い衛生管理に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その人に合わせて、入浴を支援している。時間帯は決まっている。	一日おきの入浴を基本としているが、汚染時にはシャワー浴や清拭にも対応している。湯温や量を個別に確認しながら、身体状況によっては二人係で介助し浴槽に入ってもらい入浴の楽しさを味わってもらうよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できている。散歩や入浴にも心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節かんじられる外出、できている。	普段はホーム周辺を散歩したり、海の見える場所で休憩するなど、季節の移り変わりを肌で感じながら外出している。花見やみかん山見学、紅葉見学など車で的外出も支援している。受診への付き添いやドライブなどには家族の協力が得られている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ひとりのみ支援できている。本人に渡すときサインしてもらう。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話をかけたり、手紙を書いたりする人がいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できている。	玄関先の季節の花が訪れる者を優しく迎え、共有空間であるリビングには光が差し込み、入居者が昼食前の一時をゆっくり待たれている。窓から見える黄色く色づいたみかん山が毎年、入居者の目を癒し、夜間帯の動線にも配慮して居室が配置されており、廊下の途中には入居者が一息つく椅子を用意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できている。	「私の所にどうぞ」と入居者の声に案内され、ホームでの暮らしぶりを見ることが出来た。使い慣れたダンスやテレビ、仏壇などが置かれ、積まれた衣装ケースにはたくさんの衣類が持ち込まれている。転倒防止にセンサーマットが用意された部屋など入居者の使い勝手や身体状況に応じレイアウトも工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ポータブルトイレ。ベッドの高さ、配置を考えている。		